

1. 区内回遊促進を目指す背景

商工観光を促進するという観点から、各地域から寄せられていた感覚的なご意見を元にデータを分析した結果「**地域間・地域内の回遊が不足している**」という課題が分かりました。

◆寄せられていた感覚的なご意見

- ・各地域に違う特徴があり、多数の来街者があるが目的達成後そのまま帰宅してしまっている。→【**地域『間』の回遊不足**】
- ・一方、各地域の来街者も主要ランドマークや目的地だけに訪れそのまま帰宅してしまっている。→【**地域『内』の回遊不足**】

【**地域間回遊の例**】 秋葉原地域に来て下さった観光客が、そのまま区外の観光地へ移動してしまうのではなく、神保町や飯田橋といった区内の別地域の観光スポットも訪れて欲しい。



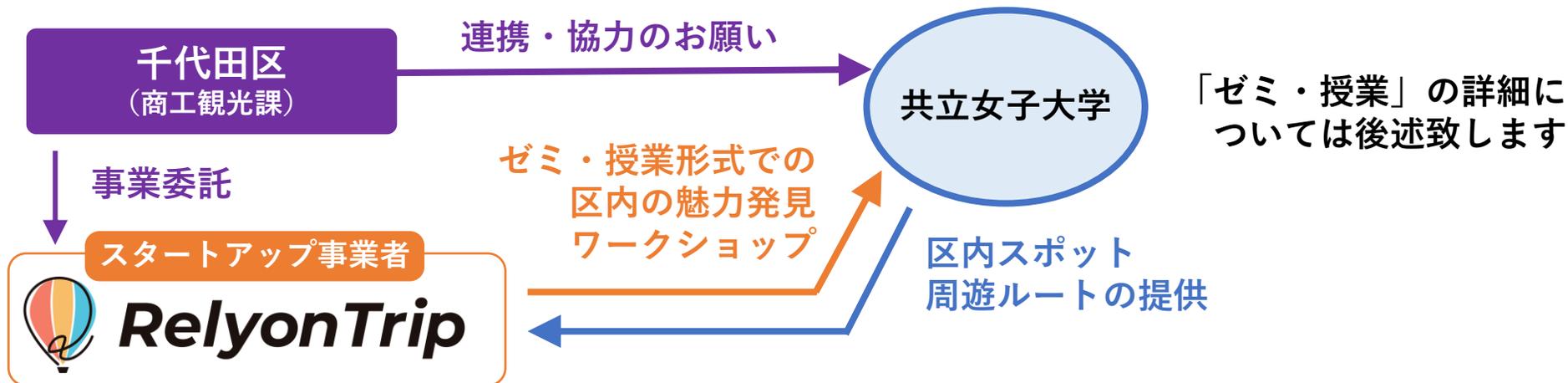
◆データ分析結果 (Wi-Fi利用履歴からのデータ分析)

千代田区の観光における人口動態を調査した結果、目的のスポットへ来訪後他エリアへと移動せずに区外へ移動している可能性が高いという調査結果がでていました。

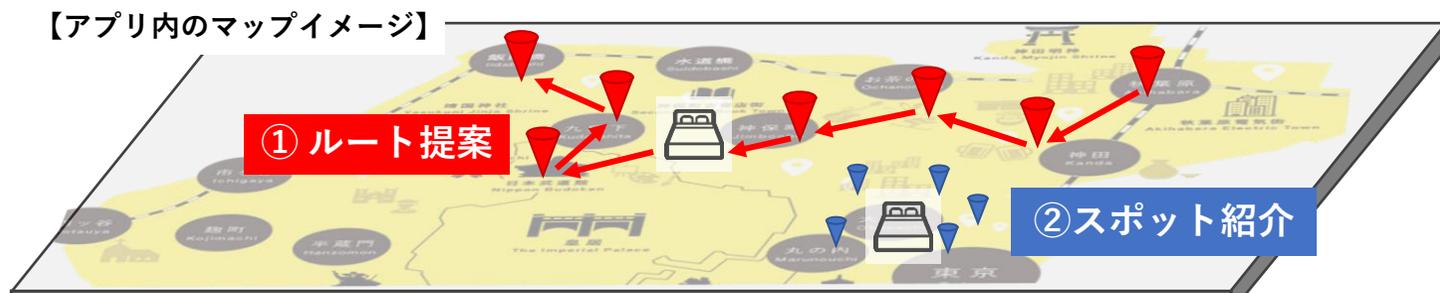


2. 課題解決のための取り組み

スタートアップ事業者提供するサービスを活用し、千代田区と区内大学様・宿泊施設様との連携によって観光客の回遊を促す施策を実施したいと考えています。



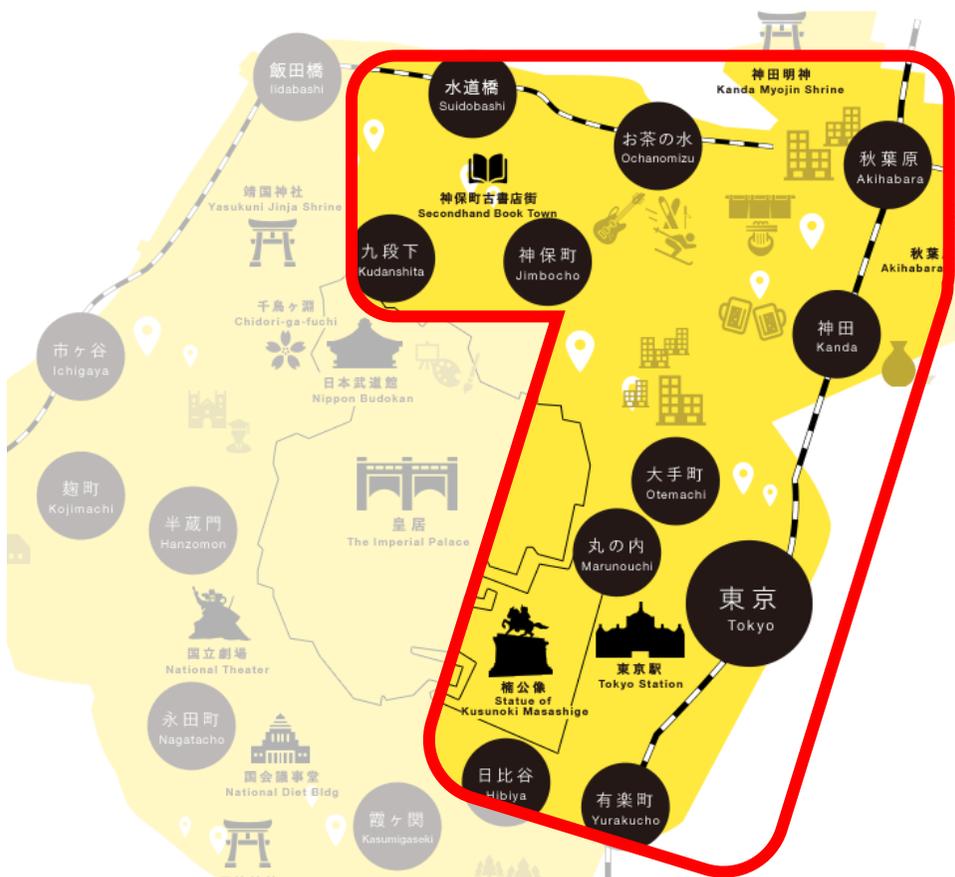
目的や用途にあわせた「提案」と「情報」を、観光客に使いやすい形で提供
【提供方法の例】宿泊施設を起点とした ①ルート提案 ②周辺のスポット紹介



*NTE：ナイトタイムエコノミー → 日本の居酒屋、バー、スナック、コンカフェなど。安全面からもどこまで含むかは要検討

3. 想定対象エリア

対象エリアは「**神保町～秋葉原～大丸有の東部エリア**」を想定しています。
理由は連携大学が多数所在するとともに、多くの観光客が訪れるエリアだからです。



- 連携大学、専門学校が多数所在
- 交通網が発達しており、東京駅・大手町駅をハブとした回遊ルートを構築しやすいという期待
- 観光客へ周知をご協力をいただき想定の宿泊施設が多数所在している
- 元々観光地としてのポテンシャルを持ち区政課題となっているオーバーツーリズムやインバウンド向けのナイトタイムエコノミー周知対応などの解決を期待
- 季節ごとのイベントとの連携

等々

4. スタートアップ事業者（Relyon Trip社）について：これまでの大学連携実績

スタートアップ事業者が提供する「ゼミ、授業」は以下のようなイメージになります。
関西エリアを中心に多くの大学さまとの連携を行っておりご好評を博しているとのことです。

プロジェクト型 【少人数・年間50時間～】



- 2022年6月～毎年実施
- 経営学部古殿ゼミ
- 商店街売上倍増キャンペーンの企画・実行
- 日経新聞夕刊一面掲載

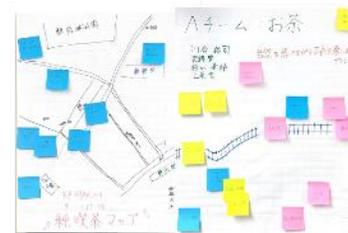
ワークショップ型 【人数無制限・4時間程度】



- 2023年11月実施
- 経済学部2コマ200分
- 6名×40チームで観光客10倍プランを検討、モデルコース策定



- 2023年11月～取組中
- 観光学部の特別取組
- 大阪/阪南市の魅力発掘&PRの企画・実行
- 自治体補助金を活用



- 2023年5月実施
- 観光情報の授業4時間
- 静岡観光客倍増プランの企画・発表

補足) 本事業の座組について：東京都との協働事業であることのご説明

東京都が実施している「UPGRADE with TOKYO」という

スタートアップ企業が持つ先進的なサービスによって社会課題を解決することを目的とした協働事業によって本事業は運営されております。

そのため、事業実施中に東京都さまの意向も反映される可能性があることをあらかじめご了承ください。

